

2008.3.20

平成19年度「障がい児・者の相談支援」に係る研修会

「深い障害」のある人たちの相談支援を考える

～「本人中心」の地域生活支援とその実際～

重症心身障害者の 地域生活展開から

－西宮市青葉園の状況報告から「本人中心」の支援について－

青葉園・のまネット西宮
清水 明彦

< 30年の経過 >

西宮での、重症心身障害の人たちの地域生活展開運動から生まれた、「西宮市のたいへん障害の重い市民の活動拠点『青葉園』」

- ・就学前の通園施設設立運動→就学運動
→地域生活拠点「青葉園」設立運動

本人と支援者が共に創り出して
いく青葉園の「活動」

「活動」の中で生まれてくる1人
ひとりの「物語」

- ・青葉園の「活動」プログラム
 - 自己実現プログラム
 - 社会参画プログラム
 - 自立プログラム

青葉園における「自立プログラム」から生まれた障害の重い人たちを生活主体者とした「あおば福祉会」による「あおば生活ホーム」

青葉園の「生活応援所」の活動から生まれた障害の重い人たちのパーソナルな支援の供給を進めるNPO「かめのすけ」

内発的に必要となってきた一人ひとりの活動と支援の「個人総合計画」

地域自立生活（一人暮らし）の始まりとその「支援の輪」づくり

「支援の輪」が常に本人中心に稼動するようメンテナンスする障害者生活相談・支援センター「のまネット西宮」

どうしても必要となってきた権利擁護支援機能の実体化

「PASネット」発足

→広範な権利擁護支援の展開

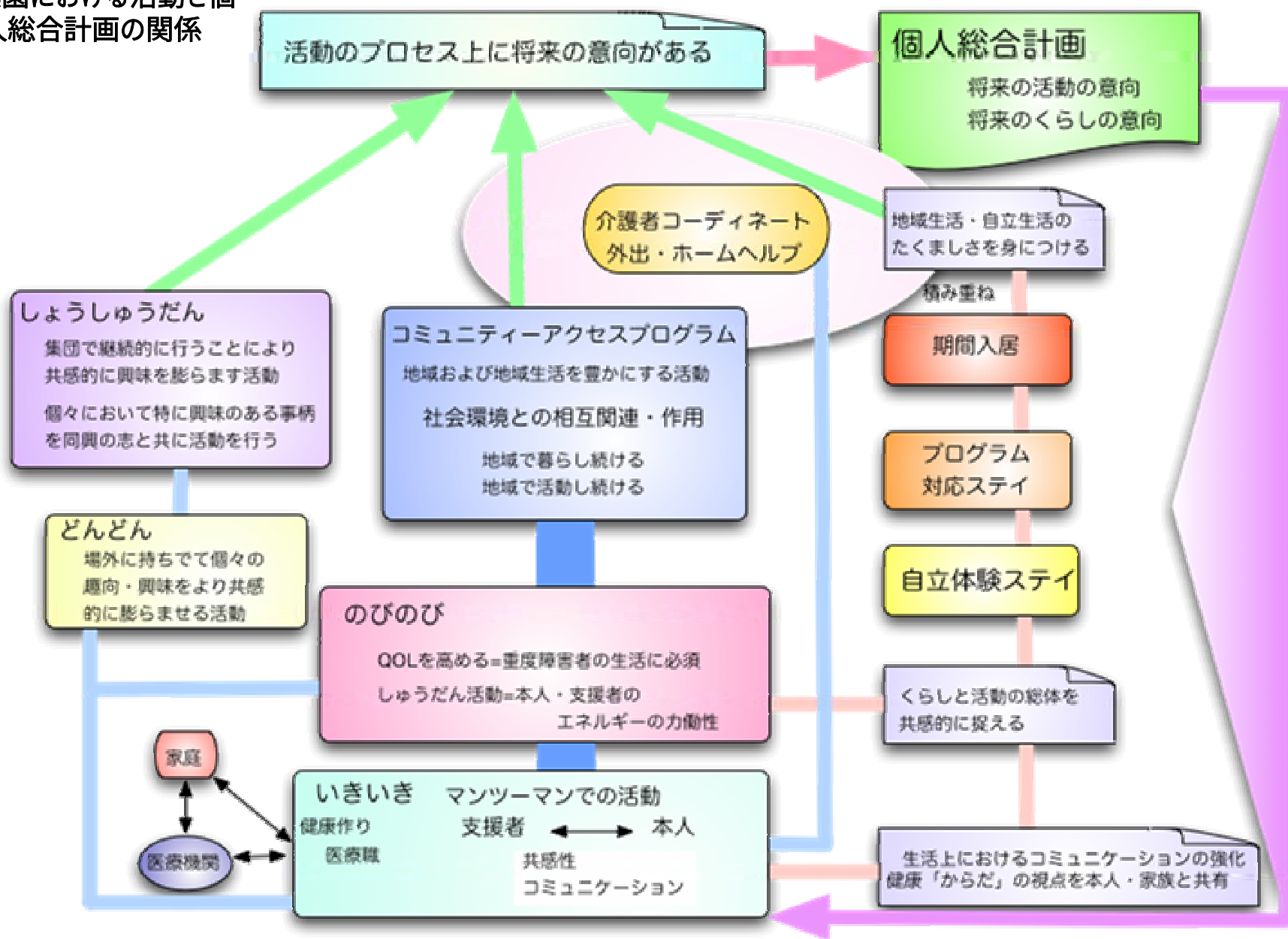
本人中心の計画づくり

立ち上がってきた主体に
基づいて、心新たに取り
組む、「個人総合計画」
づくり。

『本人中心主義』『本人計画主義』 による支援の再構築

- ＊内発的に必要となってきた青葉園の『個人総合計画』
- ＊『活動』と『支援の輪』の『本人の計画』にもとづく支援の仕組みの再構築
- ＊一人ひとりの存在の価値にもとづく、支援の思想の確立

青葉園における活動と個人総合計画の関係



個人総合計画の方法

- ・本人・家族との面談
- ・エコマップの作成
- ・サマリーレポートの作成
- ・個人総合計画書の作成
- ・支援プラン作成
- ・個人支援会議
- ・グループケース会議

面 談

本人の日常や、将来生活の意向を捉えるべく、本人・家族と自由に論議を行う。本人の内面にある社会観や地域感を捉え、それを尊重し具現化できるように表記し、また資源利用や連携の現状と拡充方法等を共に考え、将来への目標計画は「個人総合計画書」に、日常的な意向は「支援プランに」、関係性に於ける内面的な課題等は「サマリーレポート」に落とし込む。面談で得られた情報は「エコマップ」を利用し、資源や人的な関係を図式し注釈をつけておく。

エコマップ (青葉園バージョン)

- ・人と社会環境の相互作用を見渡せ、そこからそれぞれの関係性を注視していくことのできるecomapは、青葉園においても様々な場面での応用が期待できる。
- ・グループにおいてアセスメント、プランニングを行う際に効果的に状況を認識することができる。
- ・それをふまえて個々の支援組織立ち上げの検討資料に利用
- ・本人が自らと社会環境の関係性を把握するのに利用することにより様々な情報を本人に効果的に提供でき、また効果的に受け取ることができる。
- ・現状・近未来・最終的な将来展望を描くことで、支援計画過程をビジュアルに捉えることができる
- ・本人の将来展望を、家族や支援者が効果的に把握できるので、インフォームドコンセントに利用できる。
- ・支援者間、または支援組織間の引き継ぎ・カンファレンスに利用 個々のマップを統合的に見ることにより、地域生活運動の展開過程を現認することができる。

サマリーレポート

表面的な活動評価のみならず、本人と家族・職員相互がどのように関わり、共感し、何を生み出し、何を思い、見たのか。また関わりの中で発見したこと、悩んでいること、うまくいかないこと等を書き連ね、自己覚知を得ると共に関係性を十分に評価しようとする手法であり、現行の個人総合計画表の書式からは得られることのない内面的状況を表そうとするものである。なによりもその作成に時間を費やし、思い巡るプロセスこそが重要であり、活動に於ける関係性・共感性のコアを探るものである。

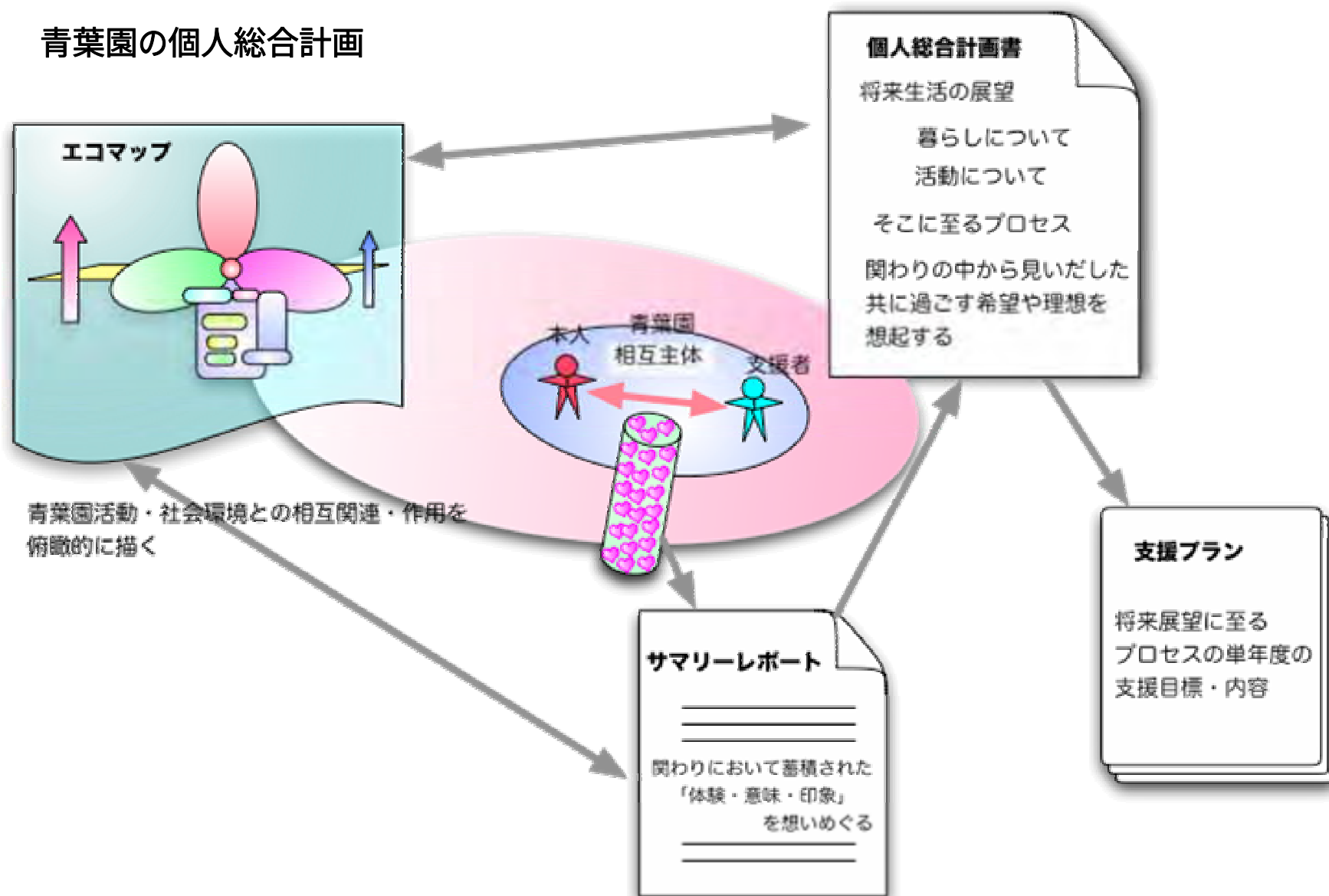
個人総合計画書

本人の日常や将来生活の意向を実践活動や面談等から捉え、将来生活の意向を暮らし（住むこと）と活動（ライフワーク）において明確にし、そこに至る本人の活動目標と支援目標・計画をそれぞれ記し、またその為の来年一年の単年度の活動計画、支援目標を明らかにする。

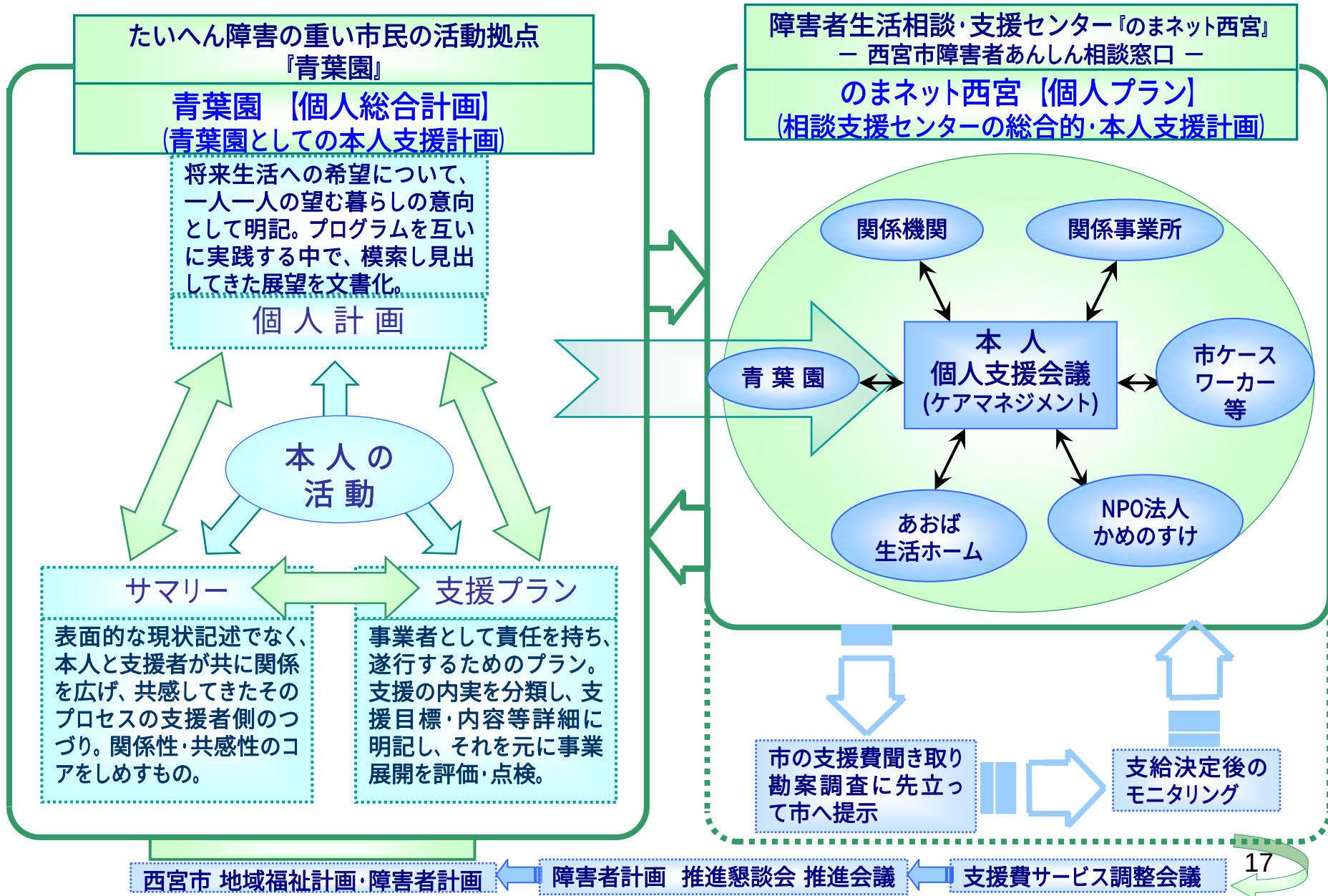
支援プラン

立ち上がる本人の主体をサポートすることにおいて、その活動の内実に事業者として責任を持ち遂行していく必要がある。プログラム、サポートの内実を分類し支援目標・内容等詳細を明記し、それをもとにアセスメント、事後評価を行う。

青葉園の個人総合計画



【活動】と【支援の輪】の《本人の計画》 ～青葉園・西宮市の場合～



- ・ 従来の青葉園における「個人支援計画」を、より一層日々の活動の中で内実化。本人の生きようとする方向性（希望）を見出し、そしてその実現に向けての支援につなぐ計画づくり。コミュニティへの変革的働きかけとしてのアクションプランを内包したものとし、その実効化を目指す。

- ・ 自立支援法でいう「個別支援計画」は本人中心の「個人総合計画」に、「サービス管理責任者」は「本人中心支援責任者」に読み替え、「相談支援事業」の本人中心による創造構築的展開も含め、自立支援法下でも「本人中心主義」「本人計画主義」のもとでのまっとうな支援をすすめていきたい。

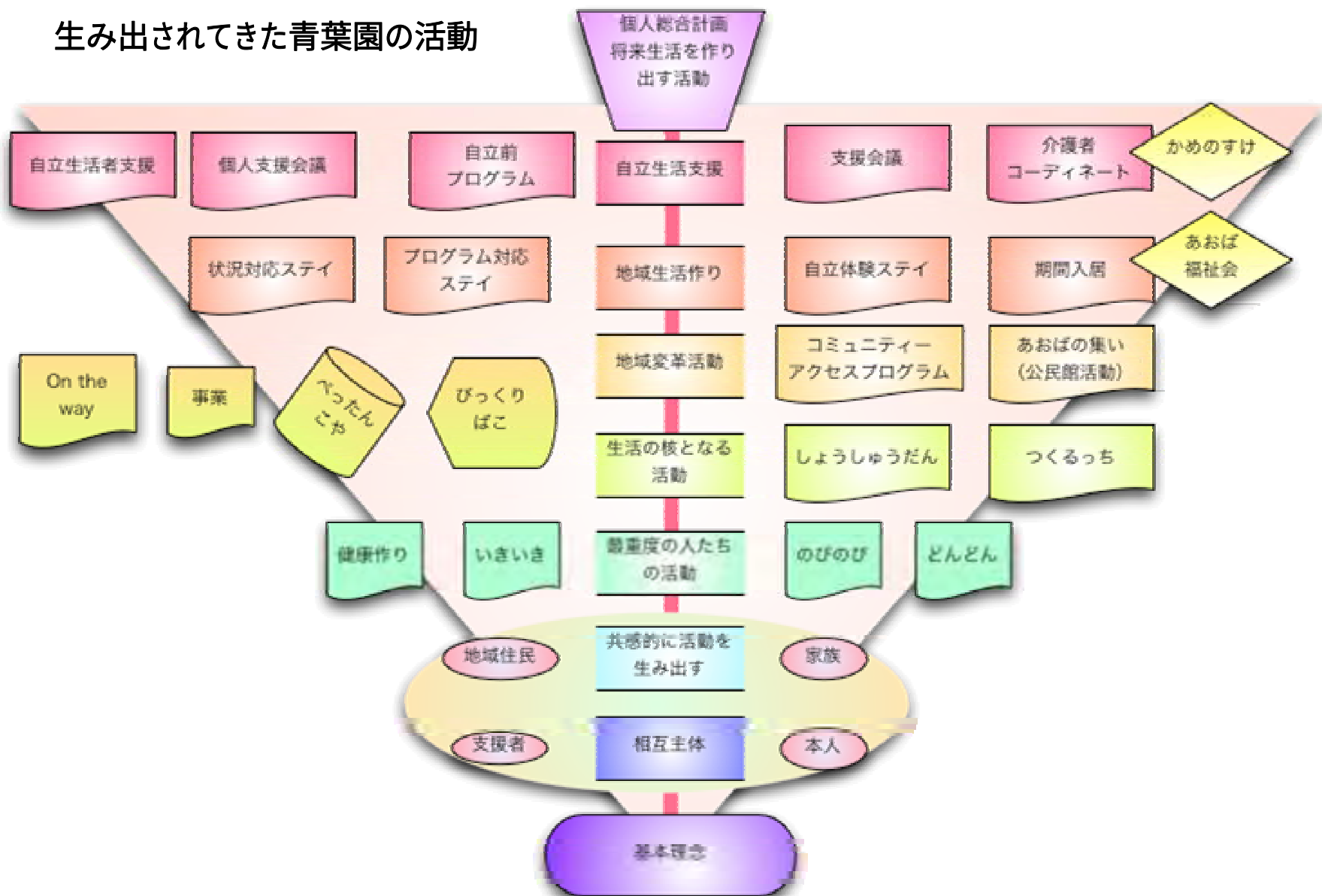
本人中心の価値づくり

コミュニティの中で共に
すすめる新たな価値作り
の起業としての「活動」
拠点づくり

「活動」の中で立ち上がってくる主体

- 「相互主体」という考え方
- ともにつくり出していく「活動」
- 「本人の計画」に基づく「活動」
 - 「活動」の中から「本人の計画」が見えてくる
 - 「本人の計画づくり」こそが「活動」

生み出されてきた青葉園の活動



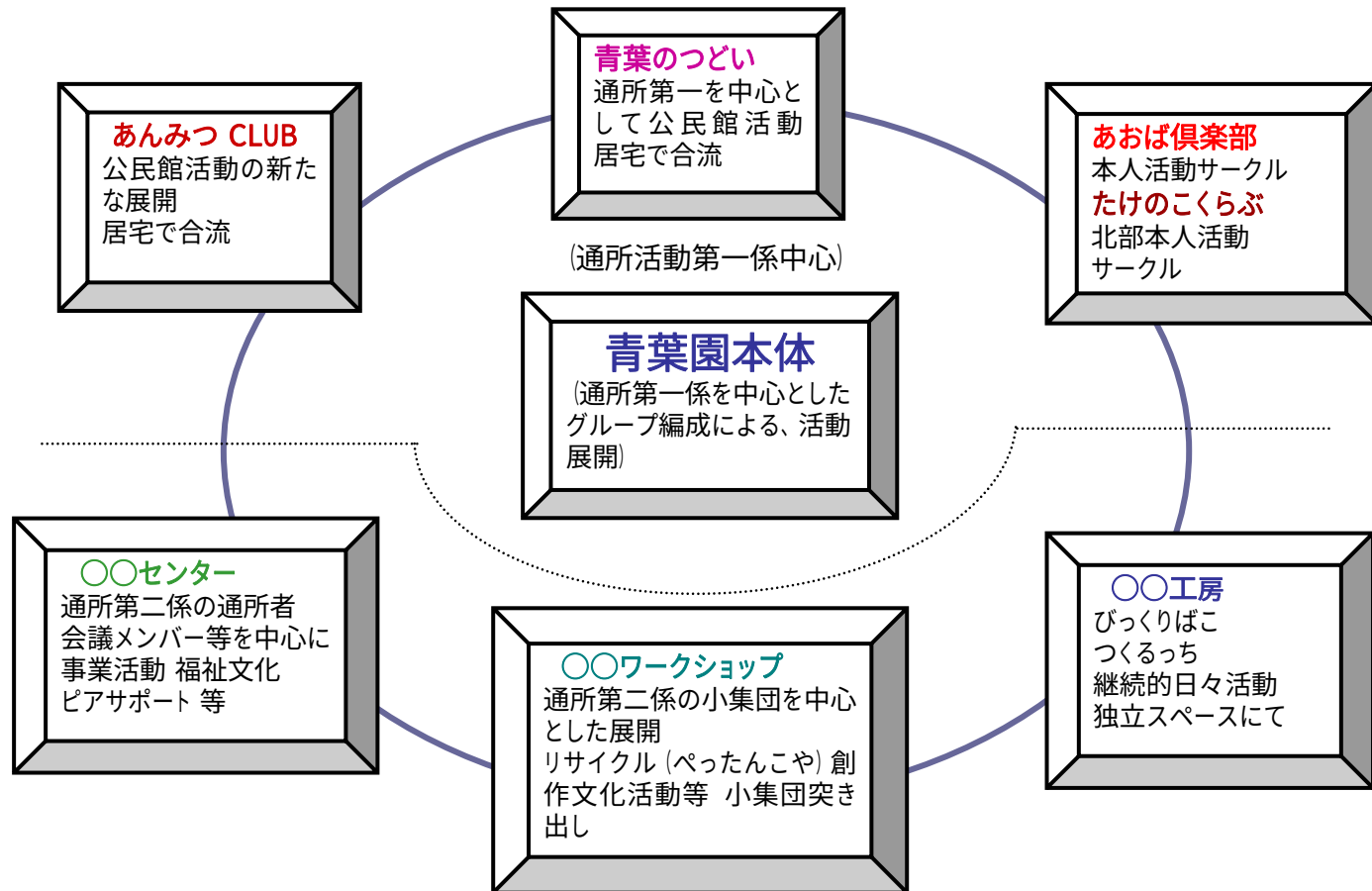
- ・ 旧来の「通所施設」の枠を捨てて、1人ひとりが個別の給付を得て、地域の中で（地域を巻き込んで）価値的存在として、その社会的役割を果たしていくプログラムの展開を目指す。

- ・ 1人ひとりがかけがえのない存在として、共に新たな地域事業を創り出す担い手として、位置づけ活動をすすめたい。地域を巻き込んで展開する1人ひとりの存在の社会的価値化のプログラム。

- ・ 地域の方々と共にすすめる地域活動「青葉のつどい」、市民と共につくる環境等のサークル活動、商店型活動、社会教育的活動、住民と共につくる交流活動拠点づくり、などなど。

青葉園展開イメージ図

青葉園



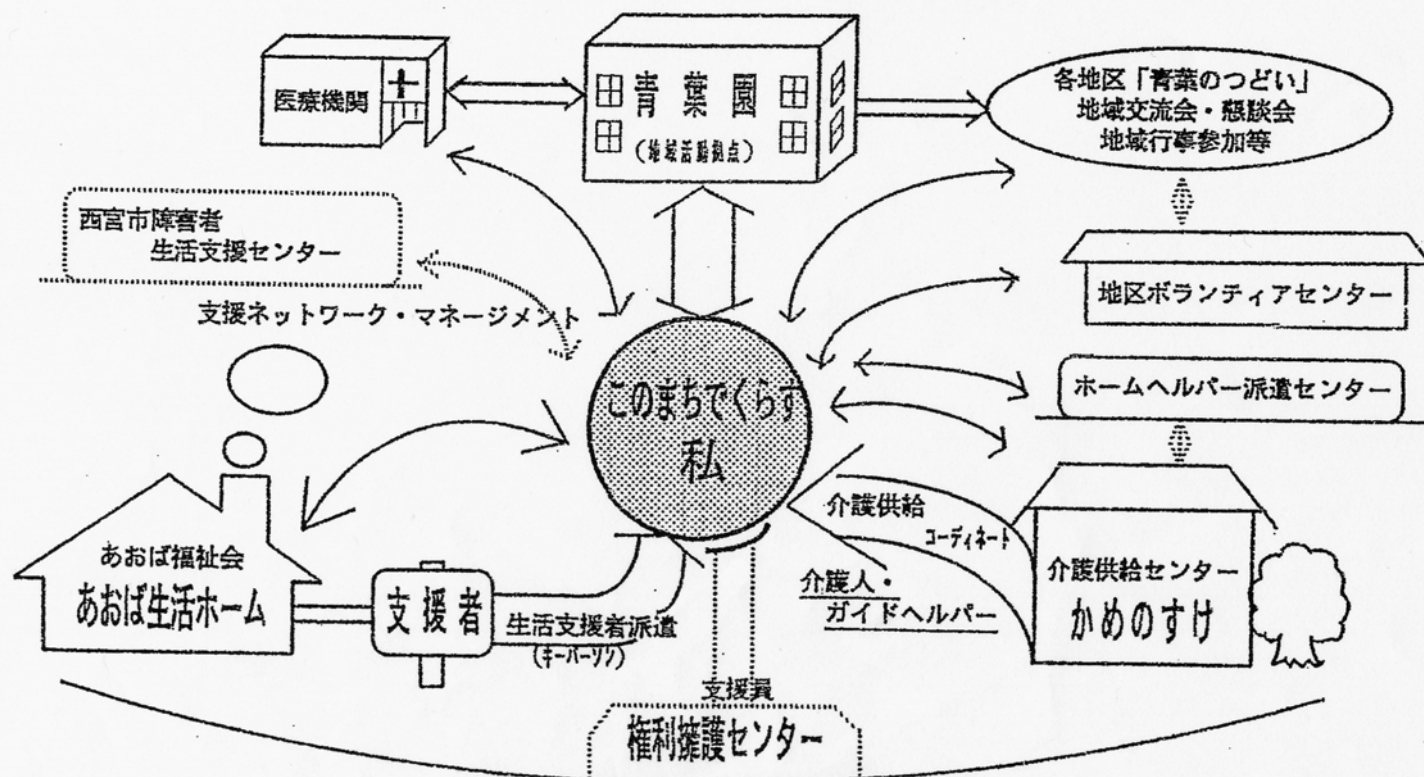
本人中心のくらしづくり

1人ひとりのその人らしい暮らしを実現する、
わがまちの「地域自立
生活支援構造」づくり。

- ・ このまち（西宮市）で、自宅でもアパートでもグループホームでも、1人ひとりが生活主体者としてそれぞれの支援の輪のもとで、暮らしていく地域自立生活を確認するものに。

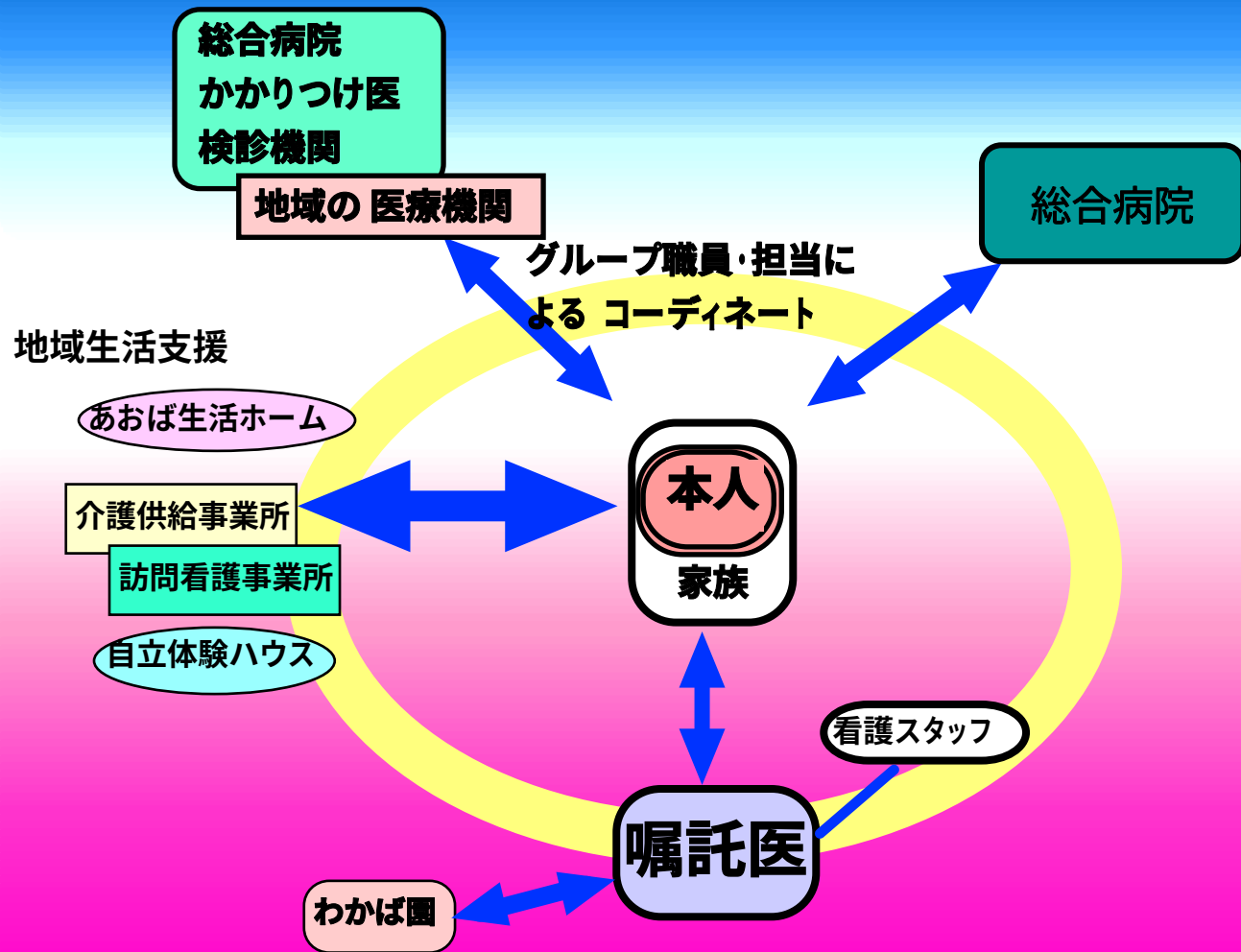
市 民 に よ る ま ち づ く り

自己発現プログラム 自立プログラム 社会参画プログラム



障害の重い方の地域での暮らしの支援は、本人中心の支援の輪として、一人ひとりに対応した、生活支援チームで支援することとなる。

地域生活と 健康・医療支援ネットワーク



- ・どんなに障害の重い方であっても、地域での暮らしは本人が生活の主体者であることが実現しなければ、まったく意味がない。

そのことを実体化する仕組みこそが必要。

週間支援計画

時 間	月	火	水	木	金	土	日・祝日
4:00							
5:00							
6:00							
7:00		起床	起床	起床	起床		
8:00		日常生活支援	日常生活支援	日常生活支援	日常生活支援		
9:00		↓ (2 H)	↓ (2 H)	↓ (2 H)	↓ (2 H)		
10:00	青葉園	青葉園			青葉園		
11:00	↓	↓	日常生活支援	日常生活支援	↓		
12:00	↓	↓	↓ (4 H)	↓ (4 H)	↓		
13:00	↓	↓	↓	↓	↓	日常生活支援	日常生活
14:00	↓	↓	↓	↓	↓	↓ (5 H)	↓ (5 H)
15:00	↓	↓			↓	↓ 食事、入浴	↓ 食事、入浴
16:00	ホーム帰宅	ホーム帰宅			実家帰宅	↓ 浣腸、排泄	↓ 浣腸、排泄
17:00	日常生活支援	日常生活支援	日常生活支援	日常生活支援		↓	↓
18:00	↓ (5 H)	↓ (5 H)	↓ (5 H)	↓ (5 H)			
19:00	↓ 食事、入浴	↓ 食事、入浴	↓ 食事、入浴	↓ 食事、入浴			
20:00	↓ 浣腸、排泄	↓ 浣腸、排泄	↓ 浣腸、排泄	↓ 浣腸、排泄			
21:00	↓	↓	↓	↓			
22:00	就寝	就寝	就寝	就寝			
23:00							
24:00							
1:00							
2:00							
3:00							

西宮市社協障害者生活相談・支援センター

ケアホームの改革を目指しつつ、当面の西宮における今後の展開として、たいへん障害の重い方の地域生活支援について、介護給付と地域生活支援事業あるいは自治体独自事業を重ねて活用した展開を目指し、西宮でのたいへん障害の重い方の現状の地域生活実態を守り発展させたい。

サービスの管理ではなく、暮らしの主体者として生きていく本人のありようを探り、見出し、ひびきあいながら、共に支援の輪を創り出す、本人中心の「ほんものの」マネジメントが実体化されていかなければならない。

相談支援と権利擁護のシステム確立も、西宮での現状を発展させていく方向ですすめていきたい。

- ・ 多様な事業者との本人中心ネットワークにより、1人ひとりの支援の輪を生み出しながら、相談支援体制、権利擁護支援体制、地域自立支援協議会などを大きな力として、わがまち（市全体）での「地域自立生活支援構造」づくりを目指していきたい。

本人中心のまちづくり

1人ひとりを市民として含
み込みながらすすめる、
「障害のある人もない人も
共に暮らしやすい西宮市」
づくり。

- ・ 誰もが安心して地域で自分らしく暮らせるために、様々な立場や役割の人と話し合い、新たな仕組みや支援資源基盤を生み出していく「西宮市地域自立支援協議会」づくり。西宮市の支援費制度構築の展開をさらに発展させ、西宮市の障害者計画・障害者福祉計画とも連動し、地域全体で協働していく実効的な構築の場、まちづくりの源泉を目指す。

● 地域全体を変えていく契機として

「地域自立支援協議会」の設立

～2007年4月までの「準備会」の立ち上げを目指して

◇これまでの実践や仕組みを活用しましょう！

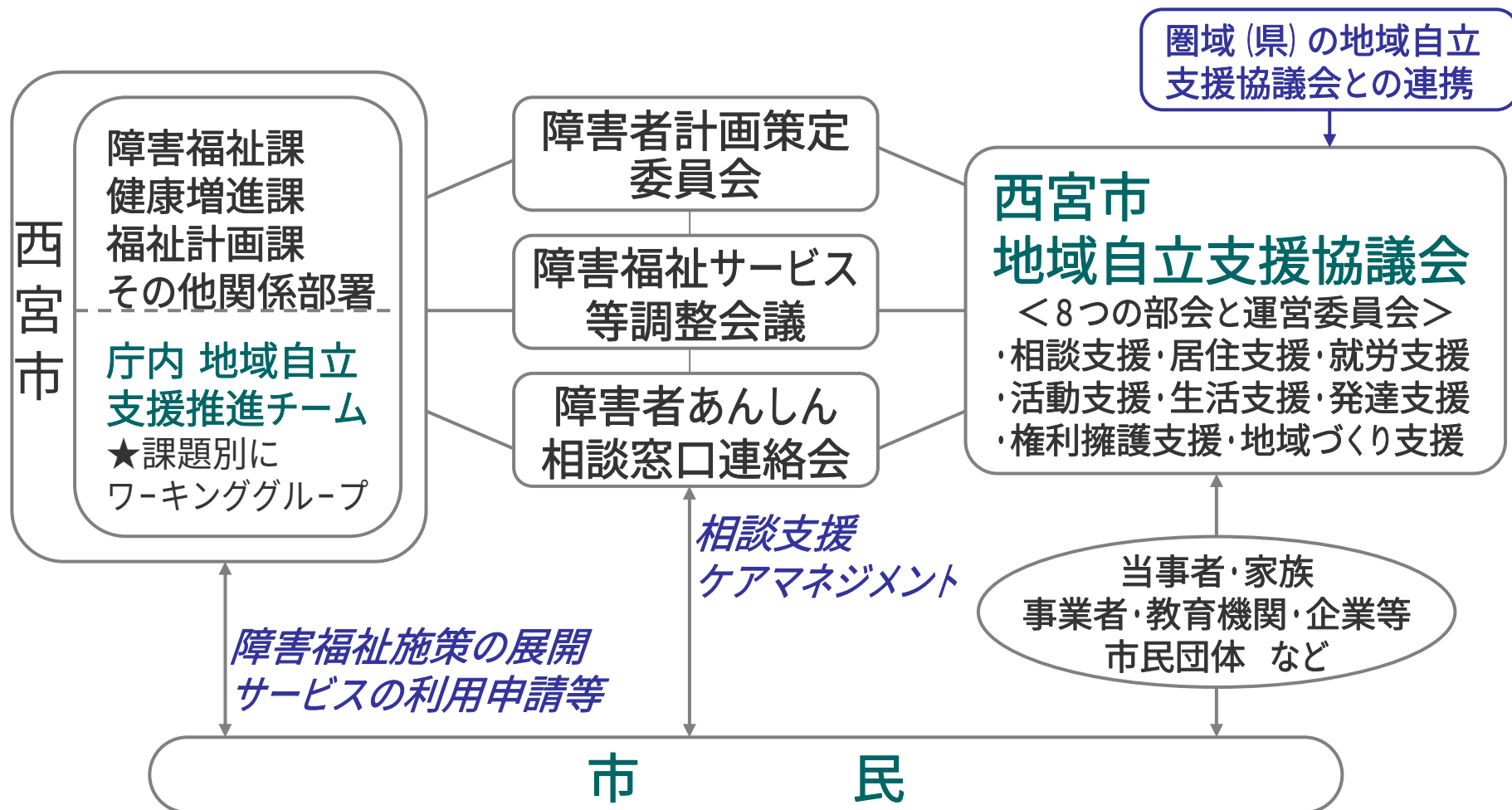
西宮市障害者あんしん相談窓口連絡会
障害福祉サービス等調整会議 等

◇障害者福祉推進計画等を推進しましょう！

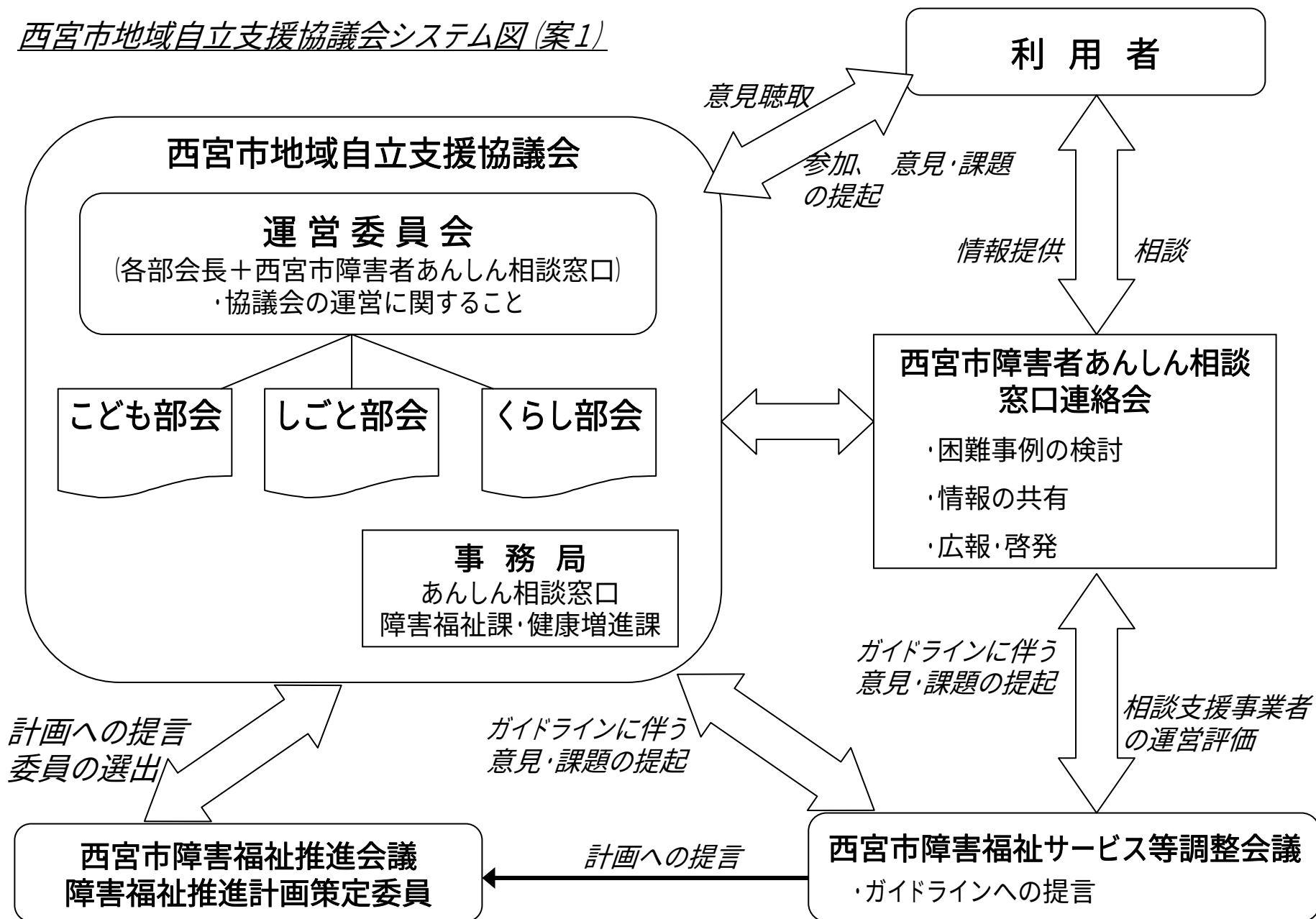
◇地域全体で協働する場にしましょう！

「すすめるネット」等の地域団体も活用しましょう。

● 地域自立支援体制のイメージ



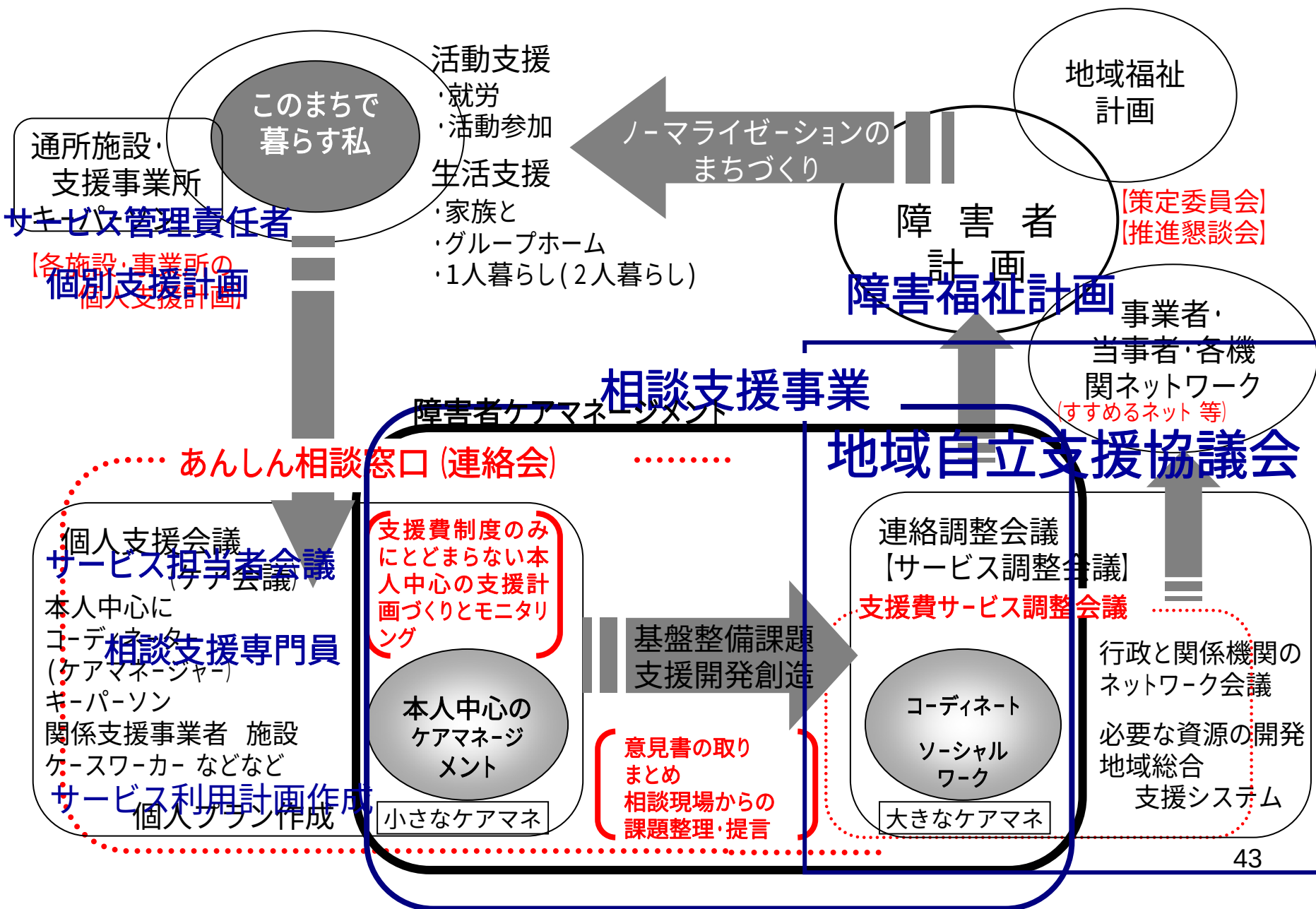
西宮市地域自立支援協議会システム図(案1)



- ・ 一人ひとりの存在の価値にもとづき
市民を巻き込んでの協議を展開し、
私たちのまちの価値観変革運動をす
すめていければ。

本人中心ケアマネジメント展開イメージ（案）

2004.9 清水



- ・ 障害者自立支援法後の新たな状況づくりは、当事者中心に市民を巻き込んで地域から・・・。